の力　「ミリーのすてきなぼうし」

「ミリーのすてきなぼうし」のべんきょうで、○○さんが「きたむらさんはこのお話で、何をつたえたかったのかな」というぎもんを出してくれました。がつたえたいことを考えるのは高学年レベルです。みんなはまだ２年生なのでのつたえたいことなんて気にしないで、お話の中に入りこんで本を読めばいいと思います。でも、せっかくだから、ちょっと考えてみてください。

「は楽しいよ」「は大切だよ」「ミリーはいつだって明るいよ」「人は色んな考えをもっている」「お母さんがミリーのにつき合ってあげてやさしい人だよ」（を、きたむらさんは、つたえたかった。）

みんなからはこんながありました。なるほど、なるほど、いいですね。

-------　ここからは、先生の考え。先生はこんなふうに考えたよ。　--------

店長さんは、

「さいふがからっぽで、お金がなくったってだいじょうぶ。してごらん。」

と、心の中でミリーに言ったのではないかと思っています。そこからはじまるミリーののは色とりどりでボリュームまんてんで、に広がります。ユーモアたっぷりで楽しくて、やさしさもあります。絵本にあるミリーがをはじめる場面が大すきです。↓↓↓↓↓↓↓

人の気もちをして、やさしくすること。をもつこと。なんだか楽しくなること。小さな・を生み出す。

きたむらさんはこの絵本でみんなに、こうびかけているような気がします。

でもね、もっともっと

たくさん羽がついているの

「の力でをえよう！をせにしよう！」